

## 研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

大動脈弁狭窄症に対する経胸壁心エコー図検査時の右傍胸骨アプローチの有用性～心電図同期造影 CT の 3 次元解析に基づく検討～

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2019 年 9 月～2021 年 8 月までに昭和大学病院にて重症大動脈弁狭窄症が疑われ心臓超音波検査と心電図同期造影心臓 CT を施行した患者

### 2. 研究目的・方法

心臓超音波検査は大動脈弁狭窄症患者における重症度評価において重要な検査であり、ドプラ法での大動脈弁通過血流速度（A-Vmax）測定ではアプローチ方法で重症度が変化することがある。このため A-Vmax の計測は多断面から観察することが推奨されており、特に右傍胸骨アプローチは心尖部アプローチに比して A-Vmax の最大値を検出しやすいとされる。アプローチ部位の違いによる Vmax の差の要因のひとつとして左室流出路と大動脈起始部の角度がより鈍角になることが報告されているが、解剖学的に 3 次元的考察がなされた研究はない。本研究では心臓超音波検査時の右胸骨アプローチが A-Vmax 測定において他のアプローチよりも優位になる解剖学的条件を心電図同期造影 CT の 3 次元的解析と比較することで明らかにする事を目的とする。

重症大動脈弁が疑われ、心電図同期造影心臓 CT 検査と心臓超音波検査を行った患者において、右傍胸骨アプローチと心尖部アプローチでの A-Vmax の差異と CT で 3 次元的に解析した左室流出路と大動脈起始角の関係性、またその患者に関する患者背景データ（採血、カルテ内容など）を電子カルテから抽出し、その関連性も検討する。

#### 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「結果通知書の承認日」より、実施医療機関の長の研究実施許可を得てから 2022 年 7 月 31 日まで

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテ上の患者診療情報

超音波検査システム（Prime Vita）上の心臓超音波検査所見情報

心電図同期造影心臓 CT 撮像情報

#### 4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院 臨床病理検査室

氏名：黒木 唯

住所：〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8451

研究責任者：黒木 唯